

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく

保育者支援のための

自己評価ワークシート

ver.1.1(2021/01/08)

全国認定こども園研修研究機構

作成日	令和5年3月1日
法人・団体名	社会福祉法人社会福祉法人みつくす社会福祉会
園名	みつばこども園
園長名	神尾 由美

4 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年3月31日

法人名

園名

社会福祉法人みつくす社会福祉会

みつばこども園

まとめ

全体平均

3.94

第2章第2節 乳児期の園児の保育	乳児保育において、開園以来、毎日行っている散歩と沐浴は、みつばこども園の大きな特徴であるといえる。雨の日にも、大型遊具や階段、風船等を使うなど、天候に左右されることなく毎日思いきり体を動かす活動を取り入れている。そして給食後の沐浴を通して、心身共に心地よい睡眠へ繋がっていると考えており、今後も継続して取り組んでいきたい。職員間の知識も高まり、散歩でのこどもたちの感性や気づきも高まった。お部屋の環境構成で絵本やパネルシアターも強化され、こどもたちの発語や表現も豊かになり、今年は「身近なものに関わり感性が育つ」評価が高い結果となった。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	[3.環境]の項目が高い評価となっている。毎日の散歩で自然と触れ合い、生命の尊さに気付く経験を重ねられている。また保育者が進んで虫を捕まえる姿を見せたり、また地域の方の畑を毎日見ること季節の野菜の成長を楽しんで見ることが出来た。散歩に毎日行くことで得られる気付きも多く、同じコースの中で季節の変化に子どもも保育者と一緒になって楽しむことができた。お部屋の中では、コーナー遊びを充実させ、ごっこ遊びを通して、遊びの世界を広げる環境を充実させた。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	[1.健康]が他と比べてかなり高い評価となった。毎日の充実した給食のみならず、神戸女子大学と連携して学生から園児に食に関することを教わり、園児たちは食べ物に興味を持つようになってきている。その中で園庭でも野菜を育ててお世話をして収穫したものを園児自身が食べたり、包丁で切ることも経験して、それらを友達や保育教諭に提供することで食べるまでの過程も楽しめる環境ができています。天気予報や空を見ることに目を向けて、四季の変化なども興味を持てるようにするなど、周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり生活に取り入れていこうとする力を養っていると感じる。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	子どもの生育歴を職員間で把握し、学校医や来園して下さる保健師さんと共有し適切に対応できた。訪問看護師には何かあればすぐに伝達できる環境である。管理栄養士とは離乳食の進行状況を共有し、常に相談しながら進められている。保護者には、ブログなどで日々の園での様子を伝えたり、信頼関係を築きながら園児の成長を喜び、共に味わっていくことが出来た。そして施設内は衛生面に十分留意された環境が整えられている。
第3章 健康及び安全	園としてハード面・ソフト面ともに出来る限りの感染拡大を防ぐ努力を行ってきた。食育においては園児自らが野菜を観察しながら育てられる環境を用意したり、ランチルームでは園児が調理スタッフと顔を合わせてコミュニケーションが取れる環境にある。安全管理についてはヒヤリハットシートを作成して、統計を取って分析をした結果をまた職員に共有することで、今後の安全対策にも繋がっている。災害への備えについては今年度初めて保護者への引き渡し訓練を行い、園児・職員・保護者を巻き込んで、災害について考える時間を取れたことは、本園における今年度の大きな成果であるといえる。
第4章 子育ての支援	[子育ての支援全般に関わる事項]については高い評価となっている。みつばこども園の子育て交流ルームを活用して、毎月様々なイベントを安定して開催できたことで、地域の保護者や子どもたちからも支持されており、職員の保護者支援等におけるやりがいにも繋がった結果だと感じる。今後は交流ルームのさらなる充実を目指して、新しいイベントを考案するなど、新規利用者の増加に繋がるように努めたい。
第5章 職員の資質向上	全体的に昨年度より高い評価となった。今年度は職員間で話し合う時間を昨年より多くとれたことを実感している。毎日必ず行っているノーコンタクトタイムは、職員の立場を問わず発言できる場として、年々充実してきている。その中で今年度はソニー教育財団の保育教育論文に挑戦した結果、奨励賞を受賞するという成果を出せた。また、それらを全職員に円滑に共有する仕組みが構築できたことで、保育の質向上につながってきている。
総合	全体平均が昨年度より高い結果となった(昨年度全体平均3.52)。昨年度は「乳児保育」において平均が上がったのに対し、今年度は「3歳以上児保育」において評価が高くなった。'本物に触れる'経験をより多く取り入れてきたことで、成果が数字として表れていると感じる。ソニー教育財団の保育論文において「奨励賞」を受賞したことは園として大きな一歩であった。「健康及び安全」においても大きく伸びる結果となった。Googleフォームを使いデータ化したことで、こどもの怪我や職員の傾向が分かり、それをみんなで共有することで、安全面がより強化された。今年度は開園以来初の引き渡し訓練を行い、園児・職員・保護者で災害について改めて考える機会を持つことができ、保護者アンケートの結果からも実施した成果があったと感じている。次年度もみつ

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.10
「3歳未満児保育」	32	3.78
「3歳以上児保育」	53	3.84
「教育保育の配慮事項」	16	3.92
「健康・安全」	29	4.45
「子育ての支援」	18	3.72
「職員の資質向上」	9	3.67
計	172	3.94

データグラフ

